

株主通信

第119期 中間報告書
2015.4.1 >>>>> 2015.9.30

東洋鋼鋅株式会社

証券コード：5453

鉄から広がる無限大“∞”

当社の製品は私たちのくらしの身近なところで活躍しています。

“鉄”とともに歩み続けてきた東洋鋼鈹はこれまでさまざまな製品を世に送り出してきました。今日ではその伝統で培った、圧延、表面処理、ラミネートなどの技術をもとに“鉄”から“非鉄”や“樹脂”へと自らのフィールドを拡大しています。



日本で民間初のぶりきメーカー

その他材料

- 梱包資材用帯鋼
- 機械器具
- 硬質合金



バルブ自動開閉器(ベストルク)

缶用材料

- ラミネート鋼板
- ぶりき
- ティンフリースチール



食缶・インキ缶(ぶりき)

電気・電子部品材料 自動車・機械部品材料

- ニッケルめっき鋼板
- 電気垂鉛めっき鋼板
- 冷延鋼板



ハイブリッドカー用電池部品(角孔芯体材)

機能材料

- 磁気ディスク用アルミ基板
- 光学用機能フィルム



液晶テレビ、スマートフォン向けフィルム
(光学用機能フィルム)

建築・家電用材料

- 樹脂化粧鋼板
- 銀鏡めっき金属板



ユニットバス壁材(ピニトッパ)



代表取締役社長

隅田博彦

第119期中間報告書をお届けするにあたり、
代表取締役社長 隅田博彦へのインタビューを通して
当社グループの現状と今後の動向をご説明いたします。

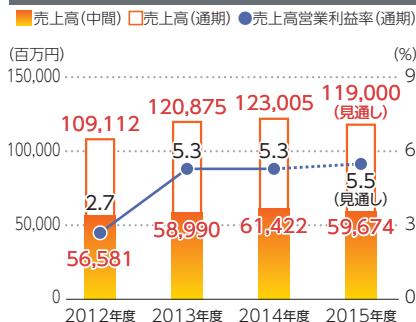
～次期中期経営計画に向け～ 収益基盤の更なる強化を図るべく、 事業領域の拡大を推し進めます。

Q 当中間期の経営成績について
ご解説ください。

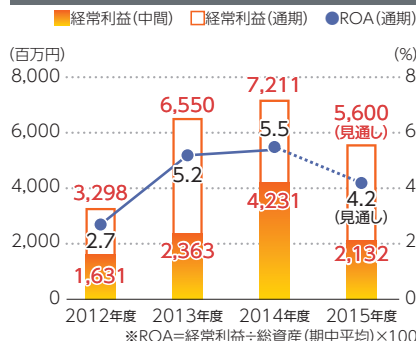
A 缶用材料の需要減退などにより、
減収減益となりました。

鉄鋼業界では、国内需要の低迷やアジア地域での鋼材需給緩和などから、依然として厳しい事業環境が続いています。このような環境の中、当社グループは積極的な新規販路の開拓などに努めるとともに、全社的なコスト低減や生産性の向上に引き続き取り組みましたが、当中間期の連結経営成績は、売上高が596億74百万円(前年同期比2.8%減)、営業利益26億98百万円(前年同期比30.3%減)、経常利益21億32百万円(前年同期比49.6%減)、親会社株主に帰属する四半期純利益12億99百万円(前年同期比54.8%減)となりました。

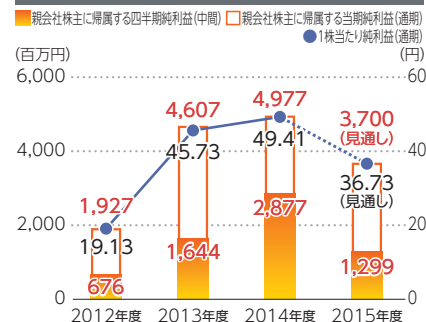
連結売上高／売上高営業利益率



連結経常利益／ROA



親会社株主に帰属する四半期(当期)純利益／1株当たり純利益



トップインタビュー

主力の鋼板関連事業においては、コーヒー缶のアルミ素材へのシフトや、コンビニエンスストアのカウンターコーヒーの浸透を受け、缶用材料の販売数量が減少したことなどにより、減収となりました。

一方、機能材料関連事業は、フラットパネルディスプレイ

関連の市場の調整局面が続いたことなどから、光学用機能フィルムは減収となりましたが、磁気ディスク用アルミ基板で為替の影響が寄与したことなどにより、事業全体では増収となりました。

また、その他事業は、射出成形機部品の販売が好調に推移したことなどにより、増収となりました。

Q 中期経営計画の進捗状況と通期業績予想についてお聞かせください。

A トスヤル・トーヨー社の工場建設は順調に進んでいます。

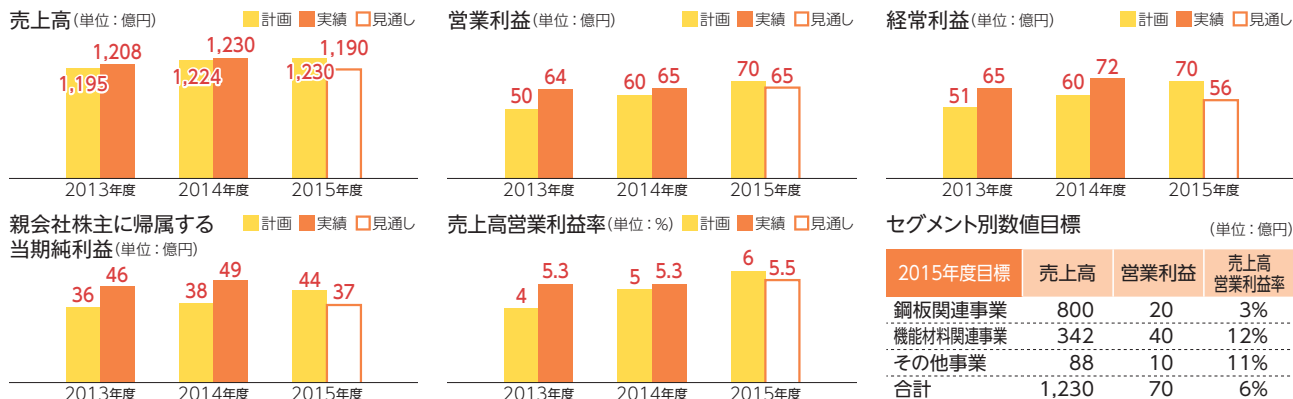
最終年度を迎えている中期経営計画「TK WORKS Beginning」では、既存事業の基盤強化に加え、海外市場への積極参入、新規事業の創出などに取り組んできました。

本中期経営計画の目玉であるトルコ合弁会社<トスヤル・トーヨー社>の工場建設は、2016年後半の稼働開始に向け順調に進んでいます。

新規事業のDNAチップに関しては、予てより山口大学と



TK WORKS Beginning 3ヶ年損益目標(連結)



共同研究を進めておりますが、この度新たに京都大学と共同で研究用の遺伝子解析キットを開発するなど、早期事業化への取り組みを着実に進めています。

また、本年10月6日付で、自動車車体用のプレス金型の製造販売を営む株式会社富士テクニカ宮津の完全子会社化を目的とし、同社株券等に対する公開買付けを実施することを決定いたしました。

これにより、当社グループは、今後も成長と技術革新が続くことが見込まれる自動車産業分野への事業拡大を図ってまいります。

当社グループは、TK WORKS Beginningに掲げた諸施策を推進し、収益基盤の強化を図ってまいりましたが、厳しい事業環境の中で最終年度の数値目標の達成は困難な状況です。通期の業績は売上高1,190億円(前期比3.3%減)、営業利益65億円(前期比1.0%減)、経常利益56億円(前期比22.3%減)、親会社株主に帰属する当期純利益37億円(前期比25.7%減)となる見通しです。

Q 株主の皆様へのメッセージをお願いします。

A 次期中期経営計画では新たなステージの展開にご期待ください。

誠に遺憾ながら、当中間期の業績は当初の計画を下回る結果となりました。この結果を受け、中間配当金を当初の予定から1円減額の1株当たり5円とさせていただきます。なお、期末配当金につきましては6円を予定しております。

TK WORKS Beginningの締めくくりとなる当期の数値目標は未達となる見通しですが、計画に基づいて取り組んできた諸施策は順調に進展しており、現在策定中の次期中期経営計画につながる成果を残しつつあると捉えています。次期計画では、海外事業の更なる強化や自動車産業分野への事業領域の拡大など、当社グループの新たなステージの展開にご期待ください。

株主の皆様におかれましては、今後ともより一層のご支援ご鞭撻を賜りますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。

TK WORKS Beginning 事業戦略

事業戦略

既存事業の
基盤強化

グローバル市場への
積極的参入

新規事業の
創出

鋼板関連事業

- 生産プロセスの改革による更なる原価率の低減
- マーケティング活動を強化し、海外市場を積極的に開拓
- 固有技術の集積化を図り、新規製品を具現化

各セグメント別の戦略

機能材料関連事業

磁気ディスク事業

- 省プロセス化技術開発による生産量拡大と原価率低減
- 顧客との戦略的アライアンス構築による市場シェア拡大

フィルム事業

- ディスプレイ向け光学フィルム事業の拡大
- フィルム高付加価値化による事業領域拡大

その他事業

機械事業

- 新エネルギー関連分野への新規展開
- エンジニアリング事業の立上げ

(株) 富士テクニカ宮津 / プロフィール

富士テクニカ宮津に対する 公開買付けの実施を決定しました。

当社は、国内外の自動車メーカーへの自動車車体用プレス金型の製造販売を営む株式会社富士テクニカ宮津を完全子会社化することを目的とし、同社の普通株式を公開買付けにより取得することを決定しました。

これにより、当社グループは今後も成長が見込まれる自動車産業への事業拡大を一層推進し、更なる収益基盤の強化、企業価値の向上を図ってまいります。

事業内容 自動車用プレス金型及び各種金型の製造・販売等

所在地 静岡県駿東郡清水町的場20番地

資本金 3,081百万円

設立 1957年2月6日

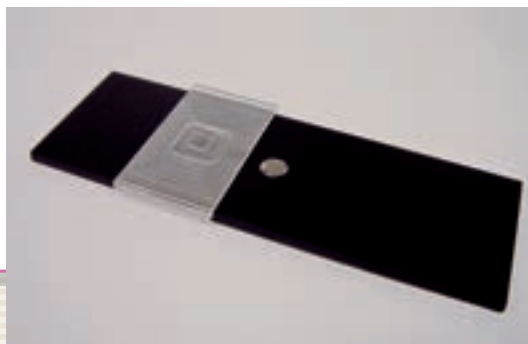
個の医療に貢献する遺伝子解析キットを開発しました。



〈遺伝子解析キット〉

当社は、京都大学医学研究科附属ゲノム医学センター 松田文彦教授との共同研究により、個人に適した医療（個の医療）に貢献する遺伝子解析キットを開発しました。

今回開発した遺伝子解析キットは、特定の薬剤における副作用の有無を遺伝子から解析するもので、キットに含まれるDNAチップには、当社の表面処理技術が活用されています。



〈DNAチップ〉

世界スカウトジャンボリーに企業ブースを出展しました。



4年に1度のボーイスカウト世界最大の祭典「第23回世界スカウトジャンボリー」が山口県山口市のきらら浜で7月28日から12日間にわたって開催されました。

日本では44年ぶり2回目の開催となった本ジャンボリーは、世界152の国と地域から33,838人のスカウトが参加しました。当社は、7月28日から3日間きらら浜の国際交流ゾーンで企業ブースを出展しました。

また、8月6日には場外プログラムとして7ヶ国(スウェーデン、アメリカ、インドネシア、デンマーク、スイス、タイ、マレーシア)80名のスカウトを下松事業所に招き、工場見学会などを通じて交流を図りました。



「TKWORKSフェスティバルinくだまつ」を開催しました。

10月17日、下松事業所において、昨年までの「東洋鋼鈹下松事業所開放デー」改め「TKWORKSフェスティバルinくだまつ」を開催いたしました。当日は地域の皆様をはじめ約4,000人の方々にご来場いただき、ちびっこ広場や科学体験コーナーはたくさんの子供たちで賑わうなど、盛況のうちに終了しました。



当中間期のポイント

POINT

- ▶▶ **売上高** 59,674百万円
(前年同期比 2.8%減)
- ▶▶ **営業利益** 2,698百万円
(前年同期比 30.3%減)
- ▶▶ **経常利益** 2,132百万円
(前年同期比 49.6%減)
- ▶▶ **親会社株主に帰属する四半期純利益** 1,299百万円
(前年同期比 54.8%減)

POINT 1

鋼板関連事業は、飲料缶材の販売数量が減少したことなどにより、減収減益。

POINT 2

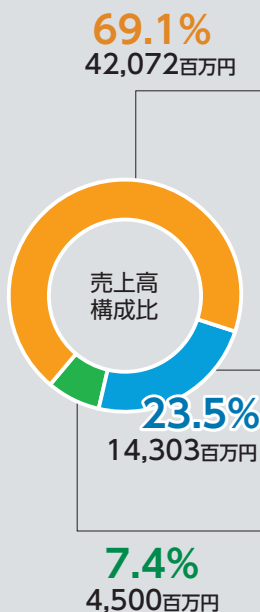
機能材料関連事業は、磁気ディスク用アルミ基板で為替の影響が寄与し、増収増益。

POINT 3

その他事業は、射出成形機部品の販売が好調で、増収増益。

セグメント情報

SEGMENT INFORMATION



鋼板関連事業

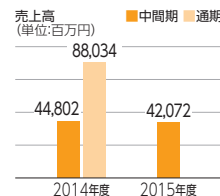


事業内容

缶用材料、電気・電子部品、自動車・産業機械部品、建築・家電向け材料の製造及び販売

事業の概況

- 缶用材料は、飲料缶材の販売数量が減少し、減収。
- 電気・電子部品向けは、民生用電池用途の販売数量の減少などにより、減収。
- 自動車・産業機械部品向けは、ガasket用途などが低迷し、減収。
- 建築・家電向けは、冷蔵庫扉材や建築用外装材の販売数量の減少などにより、減収。



機能材料関連事業

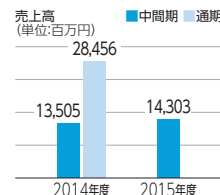


事業内容

磁気ディスク用アルミ基板、光学用機能フィルムの製造及び販売

事業の概況

- 磁気ディスク用アルミ基板は、為替の影響などにより、増収。
- 光学用機能フィルムは、フラットパネルディスプレイ関連の市場の調整局面が続き、減収。



その他事業

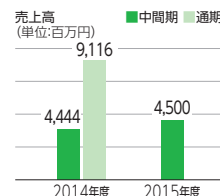


事業内容

梱包資材用帯鋼、機械器具、硬質合金の製造及び販売

事業の概況

- 梱包資材用帯鋼は、販売数量が減少し、減収。
- 機械器具は、装置本体の需要が低迷し、減収。
- 硬質合金は、射出成形機部品の販売が好調に推移し、増収。

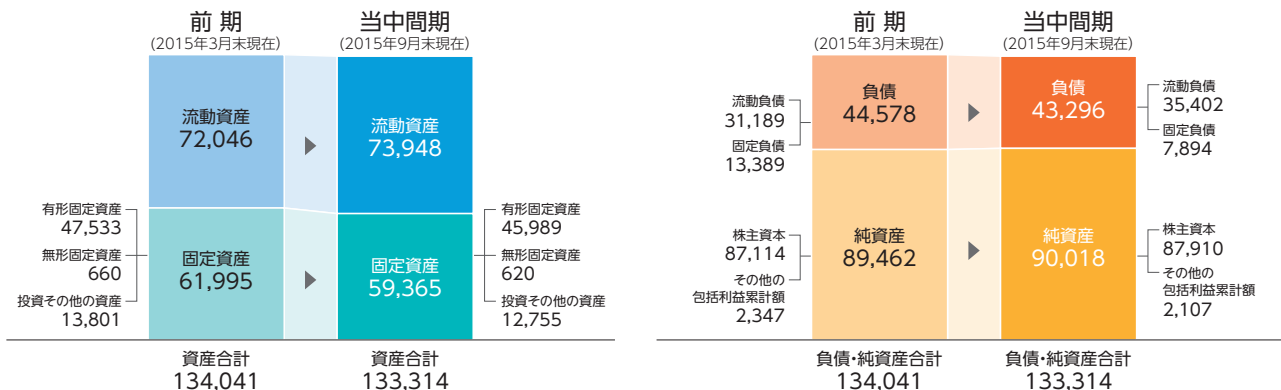


各事業の売上高は事業間の取引による金額を含んでおります。

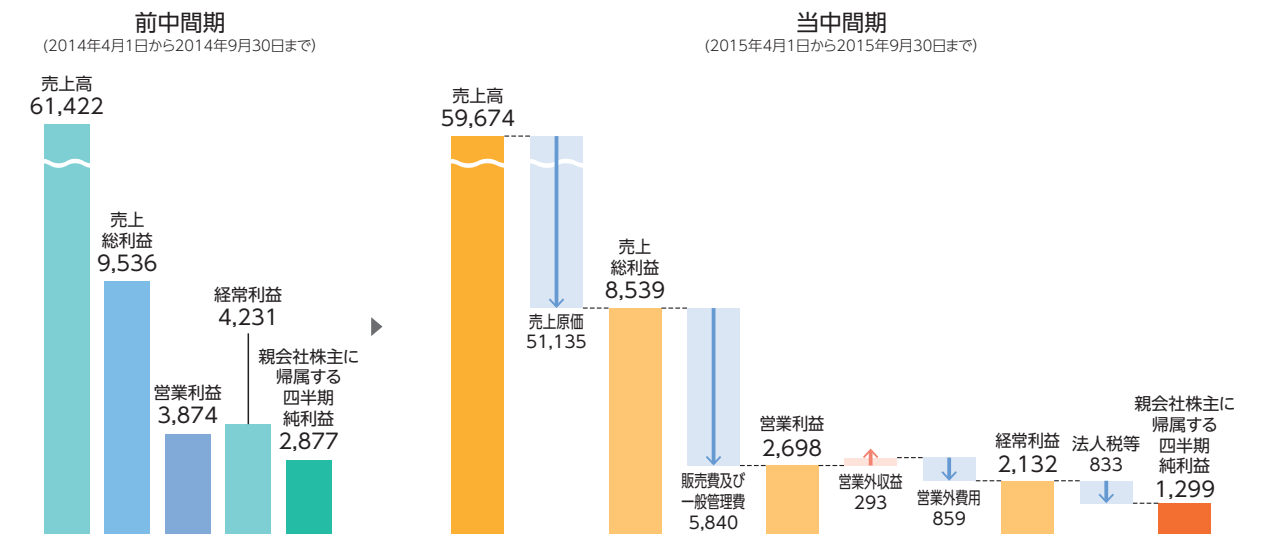
連結財務諸表

CONSOLIDATED FINANCIAL STATEMENT

財務状況 (単位: 百万円)



経営成績 (単位: 百万円)





鋼鉄工業、窒化炉を増強

鋼鉄工業は光輝拡散窒化処理を行うことができる窒化炉を増強いたしました。光輝拡散窒化処理を工具鋼などに施すことで、鋼材表面に靱性が低い化合物層を生成させることなく表面粗度を良好に維持できるとともに、耐摩耗性と靱性に優れた窒素拡散層を形成させて各種機械部品や金型類の延命化を図れます。

今回の増強で積載重量を増加させたことにより、これまで同社では対応が難しかった重量のある大きな金型や機械部品の表面硬化処理が可能となりました。

鋼鉄商事、東洋スチールを合併

鋼鉄商事は、6月1日付で東洋スチール株式会社を合併しました。鋼鉄商事が東洋スチールの商流を組み入れることにより、東洋鋼鉄グループは新たに20社余の需要家(ユーザー)と直接つながり、市場との関係の更なる強化を推進しております。

KYテクノロジー、 「関東グランドフェア 2015」に出展

7月3日、4日に千葉県幕張メッセにおいて「関東グランドフェア2015」が開催され、KYテクノロジーがサイクルラックを出展しました。

関東グランドフェアには約22,000人が来場し、同社の展示ブースにも多くの方々にお越しいただきました。



会社概要 / 株式の状況

CORPORATE PROFILE & STOCK INFORMATION

(2015年9月30日)

会社の概況

商号 東洋鋼鋳株式会社
 本社 東京都千代田区四番町2番地12
 設立 1934年4月11日
 資本金 50億4,000万円
 従業員数 2,202名(連結)
 事業所 本社(東京都)、大阪支店、仙台営業所、名古屋営業所、
 広島営業所、福岡営業所、技術研究所(山口県下松市)、
 下松事業所(山口県下松市)

役員

取締役会長	田中厚夫	専務執行役員	坂本信夫
代表取締役社長	隅田博彦	執行役員	田辺敏幸
取締役専務執行役員	吉武潤一郎	執行役員	藤井孝司
取締役専務執行役員	宮地正文	執行役員	森賀俊典
取締役	林芳郎	執行役員	長谷川浩正
取締役	梁谷良	執行役員	塩道行正
取締役	大塚一男	執行役員	大楽高嗣
常勤監査役	浪岡貞之		
監査役	宮本光晴		
監査役	大川邦夫		
監査役	冲中一郎		

東洋鋼鋳グループ

国内 鋼鋳商事株式会社
 鋼鋳工業株式会社
 KYテクノロジー株式会社
 東洋パックス株式会社
 共同海運株式会社
 下松運輸株式会社
 東洋パートナー株式会社

海外 TOYO-MEMORY TECHNOLOGY SDN.BHD.(マレーシア)
 上海東洋鋼鋳商貿有限公司(中国)
 湖南東洋利徳材料科技有限公司(中国)
 江蘇東洋鋼鋳新材料科技有限公司(中国)
 韓国鋼鋳工業株式会社(韓国)
 Kanagata (Thailand) Co.,Ltd.(タイ)
 TOSYALI TOYO CELIK ANONIM SIRKETI(トルコ)

株式の状況

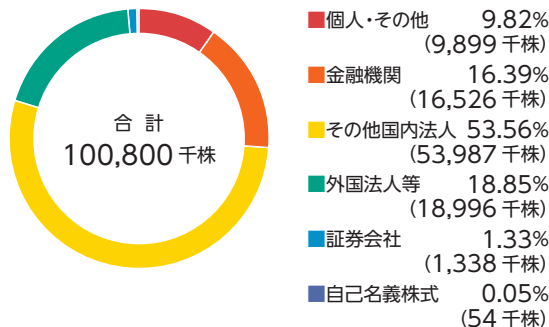
発行可能株式総数 403,200,000株
 発行済株式の総数 100,800,000株
 株主数 3,738名

大株主(上位10名)

株主名	持株数(千株)	持株比率(%)
東洋製罐グループホールディングス株式会社	47,885	47.53
株式会社三井住友銀行	2,980	2.96
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	2,446	2.43
公益財団法人 東洋食品研究所	2,055	2.04
CBNY DFA INTL SMALL CAP VALUE PORTFOLIO	2,021	2.01
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	1,503	1.49
株式会社淀川製鋼所	1,429	1.42
CGML PB CLIENT ACCOUNT/COLLATERAL	1,397	1.39
株式会社山口銀行	1,316	1.31
新日鐵住金株式会社	1,200	1.19

(注) 1. 持株比率は自己株式を除いて計算しております。
 2. 千株未満は切り捨て、小数点以下第3位は四捨五入しております。

所有者別株式分布状況



株主メモ

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	毎年6月開催
基準日	定時株主総会 毎年3月31日 期末配当金 毎年3月31日 中間配当金 毎年9月30日
株主名簿管理人	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社
同事務取扱場所 (郵便物送付先)	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社証券代行部 〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 三井住友信託銀行株式会社証券代行部
(電話照会先)	☎ 0120-782-031
(インターネット) ホームページURL	http://www.smtb.jp/personal/ agency/index.html
公告方法	電子公告 公告掲載URL http://www.toyokohan.co.jp ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告による公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載して行います。

お問合せ

証券口座で株式を保有している株主様	住所変更、買取請求その他お手続きにつきましては、口座を開設されている証券会社等にお問合せください。
特別口座で株式を保有している株主様	住所変更、買取請求その他お手続きにつきましては、特別口座の口座管理機関(三井住友信託銀行株式会社)にお問合せください。

東洋鋼鋳株式会社

〒102-8447 東京都千代田区四番町2番地12
電話 (03)5211-6211(代表)
ホームページURL tkworks.jp



本冊子は環境保全のため
植物油インキで印刷しています。



ホームページのご案内

コーポレートサイト



当社のホームページでは、当社の製品を紹介する「身近な東洋鋼鋳」をはじめ、投資家の皆様向けのIR情報など、さまざまな情報を掲載しております。

tkworks.jp

IRサイト



IRサイトでは適時開示情報をはじめ、決算短信などの各種IR関連資料やIRトピックス、株価情報など最新の情報を提供しております。

[http://www.toyokohan.co.jp/
ja/ir/index.html](http://www.toyokohan.co.jp/ja/ir/index.html)